

小学館
からの
お知らせ

速報

第68回

『小学館児童出版文化賞』 が決定いたしました。

受賞作

『ある晴れた夏の朝』

小手鞠るい(こでまり・るい)／作 偕成社／刊

『くろいの』

田中清代(たなか・きよ)／作 偕成社／刊

『わたしといろんなねこ』

おくはらゆめ(おくはら・ゆめ)／作 あかね書房／刊

小学館は本日、第68回『小学館児童出版文化賞』の最終選考会を行い、
受賞作を『ある晴れた夏の朝』(小手鞠るい／作 偕成社／刊)、『くろいの』(田中清代／作 偕成社／刊)、
『わたしといろんなねこ』(おくはらゆめ／作 あかね書房／刊)に決定いたしました。

なお、贈賞式は、11月14日(木)都内にて挙行の予定です。
正賞としてブロンズ像「わかば」(笹戸千津子作)、副賞としてそれぞれ賞金100万円が授与されます。

第68回

小学館児童出版文化賞

 受賞作 

『ある晴れた夏の朝』

小手鞠るい／作 偕成社／刊

【概要】

アメリカの8人の高校生が、広島・長崎に落とされた原子爆弾の是非を肯定派、否定派に分かれ公開討論する。メンバーは、主人公の日系アメリカ人メイをはじめ、アイルランド系、中国系、ユダヤ系、アフリカ系と、そのルーツはさまざま。それぞれのおかれた立場から、真珠湾攻撃、日中戦争、ナチズム、アメリカマイノリティなどにも話がおよんでいく。討論の結末は？ アメリカ在住の著者が若い世代に問う「戦争」の歴史と記憶。

【プロフィール】

小手鞠るい（こでまり・るい）

1956年岡山県生まれ。1993年『おとぎ話』で海燕新人文学賞を受賞。2005年『欲しいのは、あなただけ』（新潮文庫）で島清恋愛文学賞、2009年原作を手がけた絵本『ルウとリンデン 旅とおるすばん』（講談社）でボローニャ国際児童図書賞受賞。1992年に渡米、ニューヨーク州ウッドストック在住。主な作品に、『エンキョリレンアイ』『きみの声を聞かせて』『思春期』『初恋まねき猫』『アップルソング』『星ちりばめたる旗』『炎の来歴』など。

第68回

小学館児童出版文化賞

 受賞作 

『くろいの』

田中清代／作 偕成社／刊

【概要】

ひとりで帰るいつもの道で、女の子が不思議な生きものをみつけます。どうやら、自分にしか見えていないみたいです。ある日、思いきって声をかけると、その「くろいの」は、すわっていたところからおりてきて、とことこ歩きだしました。ついていくと、へいの穴からもぐりこんだのは古い日本家屋。そこは「くろいの」の家でした。ひとりでいる子どもの心によりそう「くろいの」と女の子の出会いを細やかな銅版画で描いたあたたかな絵本。

【プロフィール】

田中清代（たなか・きよ）

1972年神奈川県生まれ。多摩美術大学絵画科卒業。在学中より銅版画と絵本の制作を始める。1995年ボローニャ国際絵本原画展ユニセフ賞受賞。2019年『くろいの』（偕成社）によりナミコンクール・パープルアイランド賞を受賞。おもな絵本に『おきにいり』（ひさかたチャイルド）、『みつこととかげ』『トマトさん』（ともに福音館書店）、『おばけがこわいことこちゃん』（ビリケン出版）などがある。

第68回

小学館児童出版文化賞

 受賞作 

『わたしといろんなねこ』

おくはらゆめ／作 あかね書房／刊

【概要】

あやは大のねこ好き小学生。しかし飼っているわけではなく、両親は共働きで、学校が終わると家ではひとりだ。仲よしのアッキーとはケンカ中だし、転校生のさくらちゃんはずぐににげてしまい、まったくつまらない。そんなある日、いつもどおり家へ帰ると大きいねこが、べつの日には小さいねこが現れた。日常とふしぎを往きかって、あやが思い出したことや決心したこととは……？ 絵本作家のおくはらが、はじめて書きおろした童話作品。

【プロフィール】

おくはらゆめ（おくはら・ゆめ）

1977年、兵庫県生まれ。辻学園日本調理師専門学校卒業。『くさをはむ』で講談社出版文化賞絵本賞を、『シルクハットぞくは よなかのいちじにやってくる』で日本絵本賞を受賞。絵本に『チュンタのあしあと』、『くろいながい』、『まんまるがかり』、『やきいもするぞ』、『ネコナ・デール船長』、『みんなのはなび』、『しっぽがぴん』、『ようかいしりとり』などがあり、作絵の童話作品に『つきーとカーコのけんか』がある。

【第68回小学館児童出版文化賞 選考経過】

今回は、2018年4月から2019年3月までに発表された、絵本（創作絵本・写真絵本など）、童話・文学（フィクション・詩・シナリオなど）、その他（ノンフィクション・科学絵本・図鑑・事典など）の出版物（翻訳・キャラクター・コミックスなどは除く）で、幼年ならびに少年少女に推薦したい優れた作品を対象として、事務局内に予選委員会を設け、選考にあたっていました。

選考に先立って、審査委員・作家・画家・写真家・各出版社・新聞社・児童文化団体・図書館・書店児童図書担当者・読者からの推薦を募りました。それに事務局が収集した作品を加えて予備選考を行った結果、以下の作品が今年度の候補作となりました。

これらの作品を、審査委員の荒井良二、今森光彦、鈴木のりたけ、富安陽子、森絵都（50音順）の5名の先生方にご審査いただき、9月12日の最終選考会におきまして、受賞作を決定いたしました。

第68回 小学館児童出版文化賞 候補作品

ジャンル	作品名	作者名	発行所	発行年月
読み物	ある晴れた夏の朝	小手鞠るい	偕成社	2018年8月
絵本	おうさまがかえってくる100びょうまえ！	柏原佳世子	えほんの杜	2018年7月
絵本	おどりたいの	豊福まきこ	BL出版	2018年9月
読み物	おばあちゃん、わたしを忘れてもいいよ	緒川さよ	朝日学生新聞社	2019年2月
絵本	くろいの	田中清代	偕成社	2018年10月
読み物	疾風の女子マネ！	まはら三桃	小学館	2018年6月
絵本	どしゃぶり	おーなり由子／はたこうしろう	講談社	2018年6月
絵本	ヒョウのハチ	門田隆将／松成真理子	小学館	2018年7月
絵本	ぼくのたび	みやこしあきこ	ブロンズ新社	2018年11月
読み物	星の旅人 伊能忠敬と伝説の怪魚	小前亮	小峰書店	2018年12月
絵本	みえるとか みえないとか	ヨシタケシンスケ	アリス館	2018年7月
読み物	むこう岸	安田夏菜	講談社	2018年12月
読み物	わたしといろんなねこ	おくはらゆめ	あかね書房	2018年6月

【小学館児童出版文化賞について】

「小学館児童出版文化賞」は、児童出版文化の向上に貢献すると認められる作品及び作家を毎年選定し顕彰するものです。

この賞は、1952年（昭和27年）に小学館の創業30周年を記念して、「小学館文学賞」「小学館絵画賞」として創設され、1996年（平成8年）から発展的に統合し改称いたしました。

未来を担う子どもたちのために、多くの優れた作品が出版されることを願います。この賞がそうした出版活動に少しでも寄与できればと考えます。